

森と都市の対話 j.Pod

平成17年4月

自然とともに生きる賢人は森と都市の存在を一体的にとらえ、行政や学問がもつ垣根を越えて自然の機能を取り戻し、世論を動かし始めています。日本の国土に根ざした“森と都市”の連環機構を解明し、つながりやめぐりの価値観を“対話”を通じて取り戻す新しい統合学問領域の創生と発展を願います。

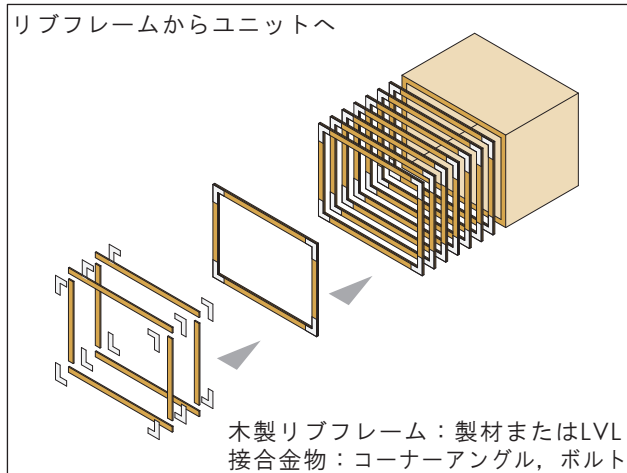
(京都大学フィールド科学教育研究センター長 田中 克)



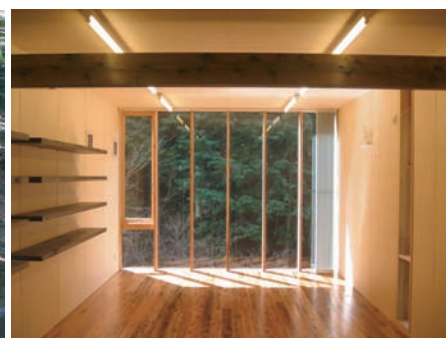
京都大学北部構内ーユニット実験モデル

木造建築の普及が実現しなかった大きな理由は、耐震性や耐火性などの構造的弱点とコストの問題にありました。しかし今これらの問題の解決に大きな技術革新が生まれつつあります。4階建ての高層化や震度7の地震にも十分耐える技術革新が進み、10㎡のユニットを組み合わせることにより、様々な広さを作ることが可能となりました。何よりも優れた点は、従来の木造住宅より大幅なコストダウンを実現し、これまで放置され続けてきたわが国の人工林に光を当て、地域産業を復活される潜在性を有していることです。

小断面部材を組み合わせることで口型のフレームを作ります。二つのフレームの仕口部分に鋼板を挟み、釘で結合したダブルフレームが工場できあがりします。建設現場ではこれらを45cm間隔に並べ、スチールのアングル部材で結合して木製ユニットを組み立てます。左右・前後あるいは上下のユニット連結はアングル部材の四隅でボルトを用いておこない、高層の建物でも短い工期で完成することができます。解体は組み立てと逆のプロセスで容易におこなえるのでリユースが可能です。



京都大学和歌山研究林ー教育研究棟



京都大学 木文化再生研究会

代表：田中 克・フィールド科学教育研究センター長

事務局：フィールド科学教育研究センター企画情報室（担当：境 慎二郎）TEL 075-753-6420

j.Pod開発グループ（京都大学地球環境学堂・小林研究室、(株)鴻池組、(有)桃李舎、トリスミ集成材(株)、John Barr Architect)